

人吉市立学校のあり方検討委員会 NEWS

ハイライト:

- ・第3回会議は令和8年2月20日(金)14時30分から行われ、委員18人が出席しました。
- ・委員は三つのグループに分かれ、前回までの振り返りの後ワークショップ形式で話し合いました。
- ・人吉市の学校の適正規模等について各グループで考え、代表者に発表していただきました。

会議次第

1. 開会 14:30
2. 委員長あいさつ
3. 教育委員会あいさつ
4. 議事(意見交換)
5. その他
6. 閉会 16:10

学校のあり方検討委員会委員

(敬称略)

八幡 彩子	熊本大学大学院教授
安達貴美子	元小学校長
小柿 勇	市内小学校長
松本 幸保	市内中学校長
加登住 亮	市保育園連盟
田中麻美子	市幼稚園連盟
吉田 肇	人吉東小保護者
村山 靖典	人吉西小保護者
山本誠一郎	東間小保護者
磯崎 竹雄	大畑小保護者
白木 真志	西瀬小保護者
鬼塚 貴臣	中原小保護者
藤田 智大	第一中保護者
永田 政司	第二中保護者
宮崎 正幸	第三中保護者
大平 和明	東校区町内会
城本 雄二	西校区町内会
川内昭一郎	東間校区町内会
東 照夫	大畑校区町内会
竹田 博	西瀬校区町内会
尾曲 義秋	中原校区町内会
岡本伸一郎	校区公民館長
尾方 治則	民生児童委員協議会

◆ 委員長あいさつ・教育委員会あいさつ ◆

はじめに八幡委員長が「私が所属する熊大教育学部には人吉高校出身の非常に優秀な学生が二人います。二人とも熊本県の教員採用試験に合格していますが、さらに研鑽を積んで熊本県、人吉市の教育のために力を尽くしたいと教職大学院への進学を希望しています。人吉市は、「人吉の学校で学んでよかった」「将来故郷のためにできることを頑張りたい」と思う素晴らしい子どもたちが育つ地域だと認識しています。子どもがますます減少していく中、未来の子どもたちのために教育環境や学校、望ましい教育のあり方、地域教育のあり方を議論していただき、より望ましい環境整備についてご意見を承ることができればありがたいです。皆様のお知恵をお貸しください」とあいさつ。

続く教育委員会あいさつで志波教育長は「卒業式を迎えるこの時期に毎年思うのですが、子どもたちが学校の先生、保護者の皆様、地域の皆様に見守られて巣立っていく様子を見ると、学校というのは地域とともにあるんだなとつくづく感じます。教職員人事は最終局面を迎えています。教員不足ということで定数を確保するのが精いっぱいだと聞いています。学級数によって配置される教員の数(定数)は法令で決まっております。中学校ではそれも厳しい状況のようです。人吉市の現状は、一



第3回検討委員会の様子

中と二中の1・2年生は3学級、小学校の新1年生は人吉東小学校が2学級で、他の小学校はすべて1学級。大畑小学校は2・3年生が複式学級になるという状況です。近隣町村では義務教育学校が増え、水上村と球磨村ではすでにスタートしています。来年度から五木村、令和9年度から相良村が義務教育学校としてスタートする準備中で、山江村もその方向で検討中と聞いています。児童生徒数の減少でこれまでとは違った状況になっているところもあり、今後、人吉市の子どもたちのために小中学校はどうあるべきか、皆様の考えやお知恵を拝借して教育委員会としてしっかりと考え、検討していきたいと思っております。」とあいさつされ、意見交換に移りました。

◆ 意見交換テーマ ◆

教育の維持・向上をふまえ、人吉市の学校の適正規模を考える

議事(意見交換)では3つの班に分かれてワークショップに取り組みました。前回は校区ごとに分かれてもらいましたが、今回はいろいろな立場から多面的な検討ができるようにランダムに分かれる班編成を行いました。来年の小学校新1年生が180人くらい。それを前提とした場合にどれくらいの規模の学校が教育の質を維持するために適正なのか、各班で検討していただきました。

委員長、副委員長、教育長、教育委員会職員が各班を回り、時折委員の質問に答えながら話し合いが進むと、白熱した討議はあっという間に45分を超えました。

それぞれの班から出た意見と、それらを整理した結果は次のとおりです。

■A班(5人)のおもな意見(右の付箋参照)

■学校の課題
大規模校・中規模校より課題が多いのは小規模校

■教員不足
教科によっては専門の先生がいないので兼務が必要になる

■統合の良し悪し
統合した学校の状況(メリット・デメリット)は参考になる

■地域(コミュニティ)
広域での統合でバス通学になると地域との関わりが薄れる

■不登校問題
不登校問題は学校の大小に関係なく起きている

■部活動
所属率が低いのであまり考えなくてよい(地域展開・民間クラブで考える)

人吉市立学校のあり方検討委員会 NEWS

<A班の意見まとめ>

いろんな視点からいろんな意見が出てきて、気になるところから話をしてきましたが、最終的に行き着く先は「教育の質をどうやって保証するか」という視点に行くのではないかとのことでした。(学校の)規模に関しては、国の基準はあるにしても「地域の実情も勘案する」とあり、皆の意見はバラバラですが、小規模と大規模のメリット・デメリットは表裏一体で一概にどっちがいいとも言えないと。人吉市の特徴的なところは人口密度が非常に低く、1校あたりのエリアが広いこと。それ以外にも、複式学級かどうか、地域とのつながりはどうかと出てきたのですが、それも一長一短だよねと。結局、一長一短が結論なのですが、現状で考えて、地域とのつながりを含めて、いいものはなるべく維持したいという気持ちは皆さんあるのかなと感じました。(発表者: 加登住亮)



討議結果報告 (A班)

■B班(5人)のおもな意見

■児童生徒数

いずれ大畑以外も複式学級になる可能性がある

■地域(コミュニティ)

学校がなければコミュニティが保てなくなる

■児童生徒数

中学校も小学校と同じ道をたどる

■地域(コミュニティ)

学校が地域を支えている

■建物(校舎)

はたして耐えられない校舎なのか?

■通学

(小)遠距離は厳しい
(中)自転車通学可能

<B班の意見まとめ>

初めに、教育の維持・向上をふまえてというよりも、地域の再編成、児童生徒数も長い目で見たときにいずれ大畑小の実態に近づいていく、それぞれの小学校も人数は減っていくので、それをどうするかということで、極論は中学校を一つにする、ただ、小学校は各地域に残

したほうがいいという方向にまとまった形になります。ただし、その状況も地域で子どもたちを育てる、地域に学校を残さないと(地域が)寂れてしまう、大塚を見てもどんどん少なくなっている現状がある。小学校を人数だけでくっつけて6校から3校にすると通学が厳しいと思うので、中学校は一つか二つ、川上と川下で分けたほうがいいのではという意見も出てきました。新しい学校の建設をしたほうがいいのではという意見も。複式学級はいずれどの学校も直面する課題で、今はないので悪い面しか見えてこないのですが、いい面もあると思います。ただ勉強の面ではいいのか悪いかわからないのですが、そこを教育委員会から説明すれば保護者の納得も得られるのではと思います。(発表者: 宮崎正幸)



討議結果報告 (B班)

■C班(6人)のおもな意見

■小規模校

複式学級は適正? PTA存続危機?

■校舎の問題

建物が古い
維持費がかかる

■学校規模

小規模だからどこかと一緒に…という考えはよくない

■市の全体像

長いスパンで考えないといけない
10年後はどうか?

■学校統廃合

中学校を一つに
小学校は今のまま

■学校統廃合

3校ずつ統合して義務教育学校3校に

<C班の意見まとめ>

学校の適正規模に関して意見が多かったものを発表します。ひとつは、中学校を一つ、小学校は現在の6校のまま歩いて登校するというものです。斬新な意見としては、三つの義務教育学校を作るというもので、第一は人吉東

小・人吉西小・第一中、第二は西瀬小・中原小・第二中、第三は東間小・大畑小・第三中を併せるというものです。通学はバスを使う、あるいは保護者の送迎が増えているのでそれに頼るとも話に出ました。今後の検討事項としては、校区の考え方・捉え方をいったんフラットにして、例えば東校区でも東間小に近いなら東間小へ、中原校区でも西瀬小に通えるなど、校区について柔軟に考えてみるのはいかがでしょうかという意見も出ました。学校の特色で選択できるようにするのもいいとか、各学校のいいところを知り、保護者が魅力を感じる学校を選ぶ、自由化というか、学校を選択できるようにすることを考えていくような意見も出ました。(発表者: 吉田 肇)

【八幡委員長より】

具体的な校区再編の意見も出ましたが、これから生まれてくる子どもの数が150から180人として、中学校の規模で基本的な教



討議結果報告 (C班)

科の教員が一通り揃えられるのは、これで1校とするのが適正規模ではないかと思えます。家庭科などは熊本市でも今や1校に一人配置できない状況で、複数校を掛け持ちで授業しています。仮に人吉市で複数の中学校を配置すると同じ状況になる。そういったやり方がいいのか、質の充実と多様な教育を実現できる1校を設けたほうがいいのか、中学校も規模と質の関係が明確なのかなと思えます。た

だ、小学校は地域の文化や校区との関係をどのあたりで…、複式学級をできるだけ避ける形で、クラス替えも実現できる学校の規模、何校くらいが適当なのか、そういったことも踏まえて来年度は少し具体的な案も示していただきながら、実現可能な人吉市の学校のあり方を考えていく段階に進んでいくのかなと思いました。

【安達副委員長より】

本当に先の先まで考えてご意見をいただいたと思いました。中にはAIで10年後の人数を割り出してどうするか具体的に決めたほうがいいのではという意見も出て、思い出したのはあさぎり中学校のことです。中学校5校を1校にするか2校にするか意見が分かれていましたが、結局1校にまとまりました。今考えると1校で正解だったかなと感じました。建設的な意見をたくさんいただきました。来年度は方向性を決めるので本当に重要になってくると思えます。

※次回は令和8年5月開催予定です